

心が燃えるような出会い

ルカの福音書 24 章 13-35 節

はじめに

今日は、イエス様の復活を記念する「イースター」です。

イエス様は二千年前に、私たちのために十字架で死なれました。イエス様が十字架で死なれたことは、歴史的事実です。しかしなぜ私たちは、「私たちのために」というのでしょうか？それは、聖書がイエス様の十字架の死の意味を教えているからです。聖書はこう言います。「**彼は私たちの背きのために刺され、私たちの咎のために砕かれたのだ。彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、その打ち傷のゆえに、私たちは癒された。私たちはみな、羊のようにさまよい、それぞれ自分勝手な道に向かって行った。しかし、主は私たちすべての者の咎を彼に負わせた**」(イザヤ 53:5-6)。

私たち人間は、神様に造られました。しかし私たちは、アダムとイブが神様の命令に背いて以来、神様のもとから追放されました。そして罪の性質を持ち、悪を重ね、この世をさ迷う存在となりました。その結果、神様の怒りを買ひ、神様の呪いと裁きを受けるべき者となったのです。

しかし神様は、それでも私たちを愛し、私たちのために神の子イエス様をこの世に遣わされました。イエス様は、私たちに向けられた神様の怒りと呪いと裁きを、十字架で代わりに引き受けられたのです。そして私たちに、罪が赦され、神様と和解する救いの道を開いてくださったのです。これがイエス様の十字架の死の意味です。

しかし、イエス様の弟子たちも、最初はイエス様の十字架の死の意味が分からなかったのです。弟子たちは、ただただ悲しみました。弟子たちは、イエス様こそローマ帝国の支配から、ユダヤ人を解放してくれる救い主だと期待していました。しかし、イエス様は十字架で殺されてしまいました。彼らはただただ絶望していました。

しかしイエス様の十字架の死から三日目、ある女たちがイエス様の墓に行った所、イエス様の遺体がなかったと言う、そして御使いが現れて「イエス様は生きている、イエス様はよみがえられた」と告げたと言う、弟子たちも墓に行ってみたが、確かにイエス様の遺体はなかったと言うのです。

1. 悲しみや絶望の中で、イエスが共におられることが分からない

今日の聖書箇所は、イエス様が復活された日の出来事が書かれています。すでにイエス様が十字架で死なれてから三日経っている、そしてその日の朝に、イエス様が生きている、よみがえられたという噂が広がり始めた、しかし未だ誰も、よみがえられたイエス様の姿を見

ていない、人々は半信半疑の状態だった。

そんな中、二人の弟子がエルサレムから「**エマオ**」という村に向かっていました。エルサレムからエマオは約 11km の道のりです。徒歩で大体 2 時間かかります。彼らはもともとエマオに住んでいる弟子たちでした。弟子の一人の名前は、「**クレオバ**」です。彼らはイエス様の十字架の死を見届けた後、悲しみと絶望の中、自分の村に帰って行ったのです。彼らはイエス様の復活を信じていません。信じていたならエルサレムに留まっていたでしょう。彼らにとってイエス様の復活は、信じられないただの噂話であったのです。

すると復活されたイエス様が、彼らに「**近づいて来て、彼らと共に歩き始められた**」のです。彼らはイエス様だと分かりませんでした。聖書は「**二人の目がさえぎられていた**」からだと言います。彼らは、イエス様が生きていること、よみがえられたことを信じていませんでした。だからこそ、彼らの目はさえぎられて、イエス様が共にいてくださることが分からなかったのです。

彼らは悲しみと絶望の中、イエス様が共に歩んでくださっているのに、それが分からなかったのです。イエス様が生きていて、よみがえられたことを信じていなかったからです。

「フットプリント（足跡）」という有名な詩があります。

「ある夜、私は夢を見た。私は、主とともに、なぎさを歩いていた。暗い夜空に、これまでの私の人生が映し出された。どの光景にも、砂の上に二人の足跡が残されていた。一つは私の足跡、もう一つは主の足跡であった。これまでの人生の最後の光景が映し出された時、私は砂の上の足跡に目を留めた。そこには一つの足跡しかなかった。私の人生で一番辛く、悲しい時だった。このことがいつも私の心を乱していたので、私はその悩みについて主にお尋ねした。『主よ。私があなたに従うと決心した時、あなたは、すべての道において、私と共に歩み、私と語り合ってくださいと約束されました。それなのに、私の人生の一番辛い時、一人の足跡しかなかったのです。一番あなたを必要とした時に、あなたがなぜ私を捨てられたのか、私には分かりません』。主はささやかれた。『わたしの大切な子よ。わたしは、あなたを愛している。あなたを決して捨てたりはしない。ましてや、苦しみや試みの時に、足跡が一つだった時、わたしはあなたを背負って歩いていた』」。

私たちの人生には、辛い時、悲しい時、絶望する時がしばしばあります。その時もイエス様は、イエス様を信じる私たちと共に人生を歩いてくださっています。しかし私たちには、イエス様を見失う時があります。イエス様が共に歩んでくださっていることが、分からなくなる時があります。イエス様は確かに私たちと共に歩んでくださっているのに、私たちの信仰の目が閉じてしまう時があるのです。

エマオに向かっている二人の弟子も、彼らの信仰の目が閉じていたために、イエス様が共に歩んでくださっていることが分からなかったのです。

2. イエス様が共におられることが、はっきりと分かるために

(1) 聖書は私たちの心を燃やす

では彼らは、どのようにしてイエス様が共に歩んでくださっていることが分かるように

なったのでしょうか？

イエス様は彼らに聖書全体から、御自身について教えられました。この時の「聖書」というのは、旧約聖書の事です。イエス様は旧約聖書から、御自身が苦しみを受け、三日目によみがえることがすでに預言されていたことを説き明かされたのです。

イエス様は十字架で死なれる前から、弟子たちに何度もこのことを教えられていました。イエス様はこれから苦しみを受け、三日目によみがえる、と。しかし弟子たちには、それが理解できなかったのです。

しかしイエス様は、エマオの村に向かう 2 時間の道のりの中で、二人の弟子たちに丁寧に聖書を教え、イエス様はどういう方か、イエス様は私たちのために十字架に架かり、三日目によみがえることを教えられたのです。

すると弟子たちの心に変化が起きて来たのです。32 節で彼らはこのように言っています。**「道々お話して下さる間、私たちに聖書を説き明かして下さる間、私たちの心は内で燃えていたではないか」**。聖書を通してイエス様について教えられると、弟子たちの心は元気になってきたのです。そして希望が見えて来たのです。

私たちは、しばしばイエス様が私たちと共に歩んでくださっていることを見失う時があります。どうしたらイエス様が共に歩んでくださっていることが分かるようになるのでしょうか？どうしたら信仰の目が開かれるのでしょうか？それは、聖書を読むことです。聖書は私たちに、イエス様のことを教えてくれます。イエス様がどのような方であるかを私たちに思い出させてくれます。

(2) イエスはパンを取って神をほめたたえ、裂いて彼らに渡された

二人の弟子は、イエス様から聖書を教えられた時、確かに心が燃やされました。しかし、彼らの信仰の目が開かれ、イエス様が共に歩んでくださっていることが分かるのは、もう少し後のことです。

夕方になってエマオの村に着くと、イエス様は「**もっと先まで行きそうな様子であった**」のです。そこで彼らは、イエス様にしつこく頼んで、自分たちの家に泊まってもらうことにしました。そして夕食の時、イエス様がパンを裂いて、彼らに渡された時、彼らの信仰の目が開かれ、イエス様が生きておられること、よみがえられたこと、共に歩んでくださっていたことが分かったのです。イエス様がパンを裂く姿、それは聖餐式の姿とも言えるでしょう。彼らは、イエス様から聖餐式のパンを受け取った時、イエス様が共に歩んでくださっていたことが分かったのです。

彼らがもし自分たちの家にイエス様を引き留めなかったら、どうなっていたでしょうか？確かに心は燃やされ、元気になり、希望が見えてきたかもしれませぬ。しかし、イエス様が生きておられること、よみがえられたこと、共に歩んでくださっていたことが、はっきりとは分からなかったかもしれませぬ。

私たちは、聖書からイエス様について学びます。そして心に元気が出たり、希望が見えて

来ることもあります。しかしただ学ぶだけでは、私たちの信仰の目は開かれません。イエス様が生きておられること、よみがえられたこと、共に歩んでくださっていることがはっきりと分かりません。

私たちは、イエス様に応答して、イエス様を心で受け入れ、イエス様との食事である聖餐式に与らなければなりません。そのようにしてこそ、イエス様が共に歩んでくださっていることがはっきりと分かるようになるのです。

イエス様はこう言われます。「**見よ、わたしは戸の外に立ってたたいている。だれでも、わたしの声を聞いて戸を開けるなら、わたしはその人のところに入って彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする**」(黙示録 3:20)。イエス様は、私たちの心の扉をたたいています。もし私たちがイエス様を心に迎え入れ、イエス様を信じ、洗礼を受け、聖餐式に与るなら、イエス様が生きておられること、よみがえられたこと、私たちと共に歩んでくださっていることがはっきりと分かるようになるのです。

おわりに

弟子たちは、イエス様が共に歩んでくださっていたことが分かったと、「**ただちに立ち上がり、エルサレムに戻って**」、「**道中で起こったことや、パンを裂かれたときにイエスだと分かった次第を話した**」のです。彼らは夕食の時間から、また2時間かけてエルサレムに戻ったのです。それは、夜の暗闇でした。当時は街灯もないので、外は真っ暗闇でした。しかし彼らは、暗闇の中を歩いて行ったのです。なぜなら、イエス様が共に歩んでくださっていることが分かったからです。

私たちは、イエス様が共に歩んでくださるなら、どんな困難な道をも恐れずに歩むことができます。イエス様は、私たちのために十字架で死なれた神の子です。しかしイエス様は、十字架で死なれた後、滅んでしまったのではありません。イエス様は、よみがえられたのです。それは、私たちと共に歩んでくださるためです。私たちが辛い時、悲しい時、絶望の中にいる時にも、共に歩んでくださるためです。私たちが自分の足で歩けない時には、私たちが背負ってくださるためです。

イエス様は今も生きていて、私たちと共に歩んでくださいます。確かにイエス様は、肉体をもって目に見える形で、私たちと共にいてくださるわけではありません。イエス様は天に昇られ、御自身の霊である聖霊を遣わして、聖霊を通して私たちと共に歩んでくださるのです。私たちに聖書を教え、聖餐式に与らせ、私たちをいつも導いて、どんな時でも私たちと共に歩んでくださるのです。

私たちはなぜイエス様が復活されたことを信じなければならぬのでしょうか？なぜイエス様が十字架で死なれたことだけではいけないのでしょうか？それは、イエス様が今も生きていて、私たちと共に歩んでくださることを信じるためです。もしイエス様の復活を信じなければ、私たちは人生を一人で歩まなければなりません。イエス様が復活してくださったからこそ、私たちはどんなに困難な道でも恐れずに歩むことができるのです。

お祈ります。

愛と恵みに富んでおられる主なる神様。私たちの人生には、山があり谷があります。しかしその旅路を、主なるイエス様が共に歩んでくださることを感謝いたします。

私たちの信仰の目を開いてください。そしてあなたが生きていること、私たちと共に歩んでくださっていることがはっきりと分かるようにしてください。

あなたを心に迎え入れます。あなたの御言葉と洗礼と聖餐式によって、私たちの信仰の目を開き、あなたと共に人生の旅路を力強く歩ませてください。

今も生きている救い主、イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン。